



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2013年（平成25年）8月25日号 No. 1603

目次

■ 2013年1～6月のロシア経済と鉱工業生産	1
■ エトセトラ	6
『調査月報』2013年9-10月号のご案内／6	
■ トピックス	7
三井物産がロシア製材加工会社に出資／7	
三菱重工、ロシアでごみ処理プラント建設／7	
三島光産がロシアで生産開始へ／7	

2013年1～6月のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より、2013年上半期（1～6月期）のロシアの主要経済指標が発表されたので、図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については、特に詳しく紹介する。

主要経済指標は、図表1のとおりである。ただ、8月21日現在、統計局からは上半期の国内総生産（GDP）がまだ発表されていない。四半期別のGDPはすでに出ており、2013年第1四半期が前年同期比1.6%増、第2四半期は速報値で1.2%増とされている。そこで、図表1においては、ロシア連邦経済発展省が8月16日に発表した上半期GDPの推計値（成長率1.4%）を掲載している。また、経済発展省ではより細かく、月別のGDP水準の推移も発表しているので、そのデータを図表2に示した。ロシア経済は、現在のところリセッションは回避しているものの、成長率は目に見えて鈍化している。図表1に見るとおり、上半期には投資も輸出も落ち込んでおり、家計消費が景気を支えるという構図が強まっている。

経済の柱である鉱工業生産は、2013年上半期に、前年同期比わずか0.1%増にとどまった。鉱業が前年同期比1.0%増、製造業が±0.0%と、ともに振るわなかった。なかでも不振の色が濃いのが機械産業で、景気の先行き不透明感が増す中で、企業が設備投資を手控えたことに起因している可能性がある。乗用車生産は、モスクワ市やサンクトペテルブルグ市は増産、サマラ州は大幅減と、地域によって明暗が分かれている。図表6では、2013年上半期の地域ごとの鉱工業生産指数を図示している。詳細は不明ながら、マイナスになっている地域は、モスクワ市ではモスクワ製油所改修工事による一時的な生産低下、レニングラード州はCセグメントカーの需要低迷によるフォード工場の減産など、それぞれ固有の事情があると思われる。主要地域の中で伸び率が最大となったアムール州は、発電が伸びた。